

世界中の子どもたちへ

Lindgren loved by
the Swedish

ピippiの
生みの親

リンドグレンが愛したスウェーデン



児童文学作家としてだけではなく、社会のオピニオンリーダーとして、そして一人のスウェーデン人として、スウェーデン国民が心から敬愛する女性、アストリッド・リンドグレン。「長くつ下のピippi」「やかまし村の子どもたち」「ロッタちゃんシリーズ」など、日本でも絶大な人気を誇るリンドグレンの作品と、彼女の生き方を通して、スウェーデンという国を見つめます。

2

リンドグレンと
スウェーデンの
自然

愛する
スモーランド



さあ夏はすてきだと歌おう
木々はきれいな、地面は緑
花は美しい、干し草はいい匂い、
お日さまは輝いて、
水は光っている
小鳥は巣を出たり入ったり
だから夏はわたしのものだって
歌うの
(映画「長くつ下のピippi」挿入歌
歌詞 A・リンドグレン)

リンドグレンは、スウェーデンで最も読まれた作家であると同時に、映画化された作品数が飛びぬけて多い作家でもあります。30本のスウェーデン映画と、10本のテレビドラマシリーズ：その映像化のために、彼女はたくさんの挿入歌を書いていますが、冒頭の歌詞のように、その内容の多くは、スモーランド地方の美しい自然を讃えるものとなっています。

優しい両親や兄妹、友人たちに囲まれて育ち、その大切な人たちの思い出をそのまま作品に描いているリンドグレンですが、「子ども時代が一番の思い出は？」という

インタビュに対して、「わたしは人ではなくスモーランドの自然を思い起こします」と答えています。人ではなく自然……たしかに、「長くつ下のピippi」や「やかまし村」に描かれている子どもたちの毎日は、常に豊かな自然とともにあります。木のうろからレモネードが出てくるピippiの「レモネードのなる木」や、やかまし村で子どもたちが作る「干し草迷路」、隣家へと移動できる窓際の大きな菩提樹……どの場面も読み手の心に、郷愁と羨望が溢れる強い印象を残します。



『やかまし村の子どもたち』
イロン・ヴィークランド 絵

「やかまし村」を読んだオーストリアの幼い少女は、リンドグレンに宛ててこんな手紙を書いていました。「やかまし村は本当にあるのですか。だってもしもあるのなら、ウィーンにもう居たくないのです」。

「やかまし村」は
本当にあるの？



ピippiの住んでいる「こたごた庄」は、リンドグレンの生まれ故郷、スモーランド地方のヴィンメルビーに、「やかまし村」は、そこから10キロほど離れた小さな村に、今も実在しています。リンドグレンは愛する故郷の自然を抜群の記憶力で、その色彩、手触り、匂いまでもしっかりと覚えていて、作品の中に美しく、あるがままに再現してきました。咲き乱れる花の色、湖に映る陽光、吹き抜ける風の匂い、干し草のぬくもり……子どものまなざしで、手に取るように描かれるスモーランドの自然は、リンドグレン作品の大きな魅力となっています。

リンドグレンが愛したスモーランド——そこは坂と石の多い貧しい土地で、人々の暮らしも決して楽ではなく、質素な儉約家が多い地方として知られています。リンドグレンの家族も例外ではなく、みな真面目な働き者。幼い兄妹たちも日々農場の手伝いをしながら大きくなりました。カブを間引いたり、ニワトリの餌を摘んだ



「レモネードのなる木」
として登場する木
出典：『愛蔵版アルバム
アストリッド・リンドグレン』

『長くつ下のピippi』
桜井 誠 絵

信じる力と想像力



森と湖、木々、花、陽光……スウェーデンの大自然が、幼い頃のリンドグレンの心を捉えて離さなかったように、スウェーデンに暮らす全ての人が、今でもその広大な自然から多くの恵みと癒し、新しい生命力を受け取っています。「自然はみんなのものである」とするスウェーデンの「自然享受権」は、土地の所有者が誰でもろうと、誰でもが森に入り、 TENTを張ったり、ブルーベリーを採ったりする権利を認めています。幼い頃からスウェーデンの人々は自然のすぐ隣で暮らし、自然とともに成長し、そこから多くのことを学びます。

美しいだけでなく、厳しく長い冬や災害などもあり、時には脅威ともなる自然。それを間近で感じることで、子どもたちは人間の力を超えた、大きな、神秘的な力を知るのでしょ。リンドグレンがこの世を去るまでそうであり続けたように、純粋であればあるほど、自然の偉大さは人の心に、目に見えないものを信じる力と、果てしない想像力を与えてくれるのです。

Present

リンドグレンの代表作『長くつ下のピippi』を抽選で3名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のコミュニケーションカードまたは官製はがきに、賞品名・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、ご応募ください(9月20日消印有効)。官製はがきでご応募の場合、P.26の「お便り募集」の宛先までお願いいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



※文献は岩波書店発行、アストリッド・リンドグレン作『長くつ下のピippi』(大塚勇三訳)によります。

